



KUMAMOTO

YMCA NEWS

THE KUMAMOTO
YOUNG MEN'S
CHRISTIAN
ASSOCIATION

2016
5・6
No.528

熊本地震により被害を受けられました皆さまに
心よりお見舞い申し上げます

共に生きる



甚大な被害を及ぼした熊本地震によって被災された方々、今なお続く余震の中、不安な気持ちで生活されている熊本県下と九州の皆様へ神様の励ましと慰めがあることをYMCA関係者一同、心よりお祈り申し上げます。

熊本YMCAが指定管理者として運営する「益城町総合運動公園・体育館」には約150名、管理運営共同企業体の代表として運営する「御船町スポーツセンター」には約150名(ピーク時250名)が避難されています(5月10日現在)。また、阿蘇YMCAは、阿蘇市で災害ボランティアの拠点としての役割を担っています。

熊本YMCAでは、全国のYMCAから専門性の高い職員やボランティアを受け入れ、避難所の運営、倒壊家屋のがれきの撤去などの支援活動を行っています。YMCAの連帯と世界に広がるネットワークを駆使し、全拠点を中心に地域の皆様に寄り添い、一刻も早い復興に向け、職員・ボランティアが一丸となって働きを進めてまいります。

- 1 避難所で実施した運動指導で背筋をピンと伸ばしてくれた子ども
- 2 4月19日、益城町総合運動公園に避難する子どもたちのために設置したプレイルーム
- 3・4 阿蘇地区での支援活動に県内外から多くの若者が参加した
- 5 YMCA学院生、卒業生たちも避難所のボランティアとして活動
- 6・12 タイのチェンマイYMCA、広島YMCAの街頭募金活動。支援の輪は世界に広がっている
- 7 避難所では地域の皆さんや避難した子どもたち自身がボランティアに。益城町総合運動公園では「わくわくワーク隊」が活躍
- 8・9 企業や教会からも多くの支援が届いた
- 10 「園舎と先生たちが心配で」。当時まだ再開していなかった尾ヶ石保育園(阿蘇市)を訪れた園児と家族
- 11 建築科の学生が、近隣の住民とともにゴミステーションの整理ボランティアに参加

震災によせて V | O | I | C | E

子どもたちの不安を和らげたい

避難所となっている益城町総合体育館に開設されたプレイルームを中心にボランティアとして活動しました。子どもがだっこやおんぶをせがんでくるのは、不安の表れかもしれません。ブロックや折り紙、鬼ごっこやサッカーなど、いろんな遊びを通して、そんな子どもたちの気持ちが和らげばいいなと思っています。

避難所では、子どもたちとずいぶん長い時間を一緒に過ごしました。声のかけ方やケンカが起きた際の対応など、この体験で学べたこともあります。年齢が違えば遊び方もそれぞれ。みんなが楽しく安全に過ごすには、一定のルールも必要だと思います。

これからもたくさん子どもたちに関わりたい。そして、子どもたちにわかりやすい方法で大切なことを伝えていける、そんな幼稚園教諭になりたいです。



熊本YMCA学院
児童福祉教育科2年
もり いち れい ち
盛一 玲来さん

学生が自らボランティアに

本震後に横浜から車で熊本入り。被害の大きかった地域に近づくにつれ景色も変わり、被災の現実を目の当たりにしました。

避難所運営に携わった益城町総合体育館では、「何か自分にできることを」という思いからでしょう、早い段階からボランティアが駆けつけ、活動していました。1000人を超える避難所で一人ひとりに寄り添うのは、そう簡単ではありません。そんな中、高校生や大学生が自ら、物資の仕分けなどに取り組みました。その姿はYMCAのリーダーさながら。若いボランティアやスタッフの活躍を頼もしく感じました。

今回の避難所運営を通じて、YMCAのことを知ってくれたボランティアの方々も少なくないと思います。YMCAを通して、行動を起こす人が増えていくのはとてもうれしいことですね。



横浜YMCA職員
元宮古ボランティアセンタースタッフ
大塚 英彦さん

大会に向けて頑張りたい

最初の地震が起きたのは、ちょうど体操チームの練習が終わって体育館を出ようとした時。体育館の壁がいくつも剥がれ落ちるのを目にしました。家に戻っても、朝まで眠れませんでした。まさかもう一回大きな地震が来るなんて。

数日後、YMCAのリーダーから誘われて、何もしないよりはいいという気持ちでYMCAでの清掃や物資の仕分け作業に参加しました。メンバー同士で、撮った写真を見せ合ってお互いの状況を知りました。

お店や新幹線の再開など、徐々に生活が戻っていく様子はうれしいですね。地震の影響で練習も休止。6月の大会も行われるのかどうか…。以前のように動けるか少し心配ですが、家ではせめて柔軟体操だけでもと、できることをやりました。また練習や勉強を頑張ります。



体操チームキャプテン
中学2年
山下 凜々子さん

半歩ずつでも前へ

もともと代表を務めるNPOで高齢者施設への出張美容サービスを行っていたこともあり、避難所を回りながら、高齢者のカットボランティアを実施しています。

髪を切っていると、故郷や若い頃の話など何気ない会話の中で笑顔が見られます。避難されている方々が震災の不安から解放されるひと時になればうれしいですね。

被災した事務所から一番最初に取り出したのが、カットのためのはさみでした。今も事務所では電話さえかけられず、この御船町スポーツセンターを拠点に、3週間経ってようやく事業を再開したところです。

今回の地震をきっかけに、YMCAのスタッフをはじめいろんな人と知り合うことができました。つながりを大切に、協力し合って、一日一歩でも、半歩でもいいから、進んでいきたいと思っています。



NPO法人元氣ばけ隊
森永 和典さん

2016年熊本地震

熊本YMCAの支援活動は、熊本YMCA緊急災害支援 Facebookページで紹介しています。
<https://www.facebook.com/yymca.kumamoto/>



- 益城町総合運動公園を避難所として開放
- 御船町スポーツセンターが武道場を避難者に開放し、15日に一旦閉所。本震を受け、16日から避難所運営を再開



写真左)18日、炊き出しに並ぶ人々(益城)
右)19日から始まった朝のラジオ体操(御船)



- ながみねファミリーYMCAを一時避難所として21日まで開放。また、プールの水を生活用水として提供した

- 阿蘇YMCAが地域に向けて施設を開放した“お風呂プロジェクト”
「お母さんとお風呂に入れて楽しかった」など、たくさんの笑顔が見られた



- 中央YMCA・YMCA学院の職員とYMCA学院の学生らが地域の避難所で高齢者や子どもたちへのレクリエーション、運動指導等を開始

<p>4月14日 21:26 前震 マグニチュード6.5 最大震度7</p>	<p>15日 宇城市余震 長周期地震動が初の階級4を観測</p>	<p>16日 1:25 本震 マグニチュード7.3 最大震度7</p>	<p>17日</p>	<p>18日 JR在来線 熊本～博多運転再開</p>	<p>19日 20日</p>	<p>21日 益城町災害ボランティアセンター開設</p>	<p>22日 熊本市災害ボランティアセンター開設</p>
---	--	--	------------	------------------------------------	----------------	----------------------------------	----------------------------------

- 対策本部を設置
- 日本YMCA同盟よりサポート職員到着。以降5月14日までに延べ71名が全国のYMCAからサポートに



- 阿蘇YMCAの食材、寝具などを阿蘇市の避難所へ提供開始
- YMCA学院・水前寺幼稚園が中心となり、益城町総合運動公園に避難している高齢者や子どもたちへのレクリエーション、運動指導等をスタート。19日からはYMCA学院の学生ボランティアも加わった
- むさしYMCAがシャワー室の開放をスタート

2487棟の住宅が全壊(5月6日7:30時点・消防庁発表)
熊本バンドゆかりのジェーンズ邸も全壊した(写真提供:ジェーンズの会)

- みなみYMCAのぶどうの木幼稚園を自主登園として再開
- みなみYMCA・むさしYMCAの成人ウエルネストレーニングジム・プールを再開
- YMCA学院介護福祉学科専任講師など、スキルを持つ職員が中心となり、益城町総合運動公園に避難する高齢者の入浴介助を開始

共に生きる

被災した子どもたちとキャンプに

本震後に再び駆けつけた益城町総合運動公園では、前震とはまったく違う状況が待ち受けていました。

避難所となった総合体育館で多くの物資や人が行き交う中、大きな力になったのは全国のYMCAの応援スタッフとボランティアの存在です。非日常的生活の中で社会性を育むこと、グループワークの実践などYMCAが行うキャンプの経験が避難所で活かされる場面も多くあります。いち早く企業や他団体と協働できたのも、YMCAが民間の公益団体として力を発揮できた部分です。

日々変化する状況の中で大変なこともあります。変化を喜びに変えるのが、私たちの使命だと思っています。被災した益城町の子どもたち、ボランティアで協力してくれた学生たちといっしょに、キャンプをやりたいですね。



益城町総合運動公園副所長
丸目 陽子さん

みんながいるから大丈夫

出身地のポカラは、ネパール第二の都市で、首都カトマンズから西に約200kmの位置にあります。昨年4月25日、ネパールで大きな地震がありました。私が熊本に来て2日後のことでした。今回の熊本での地震が、私が経験した初めての災害です。アルバイト先で地震が起き、近くの大学に招かれ、避難しました。

現地の両親とは数日後に電話で話しました。私のことをとても心配していましたが、「僕は大丈夫」と伝えました。同じネパール人留学生にも囲まれ、先生や日本人たちに助けられているからです。

半年後、来日して初めて故郷に帰ります。家族に会いたいですね。ネパール地震で倒壊した地域の様子も気になります。今は日本語の学習が一番。IT関連の仕事に就いて、ソフト開発に携わりたいです。



熊本YMCA学院日本語科
バンダリ クリスマ プラサドさん
Bhandari Krishna Prasad

息づくYMCAの精神

2011年5月、東京の医科大学へ移った当時は東京でも東日本大震災の余震が続いていました。今回は、ゴールデンウィークを利用して、家財運び出しなどの活動に参加。事前に情報は得ていましたが、ワイズメンやスタッフをはじめ熊本の人たちのことを案じていました。

YMCAが運営する益城町や御船町の避難所では、全国から駆けつけたYMCAの仲間とともに、それぞれの賜物を活かした奉仕が行われている様子も目にしました。親身な姿勢に、避難所で生活されている方々も安心されるのでしょうか。スタッフのひたむきな姿にYMCAで育まれてきた精神が息づいているのを感じ、とても誇らしい気持ちです。

これから会う人たちに、熊本の様子やYMCAの活動を伝えていかなくてもいけないと思っています。



むさしワイズメンズクラブ
熊本YMCA元理事長
田上 正さん

災害時の子どもの心のケア

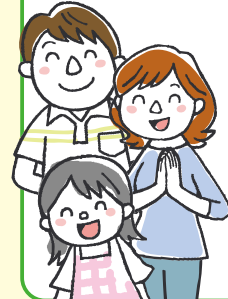
「親のそばから離れない」「夜ひとりで眠れない」——。心のSOSに気づいた時、周りの大人たちはどう対応すればいいのでしょうか。精神科医で子育てカウンセラーの明橋大二さんによるアドバイスをご紹介します。

Q震災後、4歳の娘が急に甘えてくるように。こんな時はどうしたら?

A子どもが出てくる不安のサイン・症状は様々。ちょっとした音、余震におびえる、言葉が出なくなる、などもあります。親のそばから離れない、すぐに「抱っこ」と言う、夜別々に眠れない、トイレに一人でいけない、などのいわゆる「赤ちゃん返り」の症状が現れることもあります。このような行動が出たら、十分につきあう。抱っこして、夜一人で眠れないと言うのなら、一緒に寝る。子どもの心の回復のためには、そういった赤ちゃん返りを受け入れることが、いちばん大切なことです。

Q親の私自身が不安で、子どもの甘えを受け止める余裕がありません。

A大きな災害の後には、子どもだけでなく大人も不安になります。また急に「赤ちゃん返り」のような症状が出ると、親は戸惑うと思います。そのような時は、その不安を話せる人が、親にも必要です。子どもだけでなく、親も傷を負っています。子どもをケアするためには、大人もケアを受ける必要があります。自分の気持ちを聞いてもらったり、泣きたい気持ちを受け止めてもらったりすることが、親にとっても大事なことです。




この内容は、2011年4月20日発行の1万年堂新聞(号外)「東日本大震災緊急アドバイス 受け止めて! 子どもの心のSOS」の一部を、特別に再編集したものです。

- 熊本地震緊急支援募金受付を開始
- 水前寺幼稚園が自由登園を開始
- YMCA学院日本語科を再開



「一人じゃないから大丈夫」と笑顔を見せた留学生たち

- 阿蘇の4保育園のうち、尾ヶ石と黒川保育園が再開
- 阿蘇YMCAがボランティアセンターとしての機能を開始



阿蘇の被災家で瓦運びなどを行うボランティア

23日 **24日**
熊本地震
激甚災害に指定

26日
阿蘇市災害
ボランティア
センター開設

27日
九州新幹線が
全線で運転再開

28日
熊本地震を
特定非常災害に指定
震度1以上の地震が
1000回に達する

29日
西原村・甲佐町で
仮設住宅の建設を開始
九州自動車道が全線開通

30日

5月10日



YMCA学院の学生、卒業生や多くのボランティアがサポートした入浴介助



「YMCAに来る前に息子は『やったー』と声を上げていました」という保護者も

岡 総主事の
タラントン
Vol.26



共に支え合うことの大切さ

熊本地方を襲った4月14日の前震、16日の本震、今も続く余震の中で、不安な中で生活されている熊本県下と九州の皆様へ心からお見舞い申し上げます。

前震が発生した4月14日21時26分、私は南区城南町の自宅にいました。初めての経験に、一瞬何が起こったのか分からず、緊迫した精神状況に陥っていたことを思い出します。この時間、開館しているYMCAもありましたので、職員・参加者、職員家族の安否確認…、はやる気持ちを抑えつつ、責任者への連絡。災害対策本部を立ち上げる準備を行い、二次災害発生危険もあるため、夜明けを待って本部事務局がある

中央YMCAに向かいました。

翌朝本館施設の現状を確認し、対策本部の設置と各地域YMCAの状況確認、職員や会員、学生の安否確認を引き続き行いました。情報が錯綜する中、全国のYMCAとの連携、情報収集に努め災害対策本部で益城町等の被災地支援、各地域YMCAでの地域貢献と復旧等を考えていました。

4月16日1時25分の本震では、緊張状態で浅い眠りについたときに、凄まじい揺れが襲い、自宅にいて初めて恐怖を感じました。再度の緊急メールと安否確認、現実としてには受け止められない出来事が二夜連続で発生したのです。

中央YMCA本館の一部亀裂と地割れ、体育館壁の崩落、ながみねファミリーの一部破損とそれぞれのYMCAにおける被害状況に唖然としました。各施設を有資格者のYMCA役員はじめ専門家に見てもらい、それぞれの建物自体に影響は少ないと聞き、まずはほっとしました。

しかし、度重なる余震に自然と身構える過敏な精神状態は、今なお続いています。ましてや多くの方々が避難所生活、車中泊とライフラインが復旧しても自宅に戻れない状況もあり、復興復旧の難しさと長期にわたる被災地支援活動の必要性を感じているところです。

全国のYMCAには神戸や東北等地震の避難所運営や被災地支援活動、専門スキルを持った職員がいます。新幹線や飛行機が使用できない段階でも横浜や和歌山をはじめ、様々なYMCAから、陸路で支援活動に駆けつけてくれました。世界に広がるYMCAのネットワークを駆使して、行政機関やワイズメンズクラブ、医療機関等としっかり連携しながら、長期にわたる復興支援に向け、歩みを進めていきます。

FacebookやWebサイトで熊本YMCAの災害支援活動の情報を発信していきますので、どうぞご覧ください。未だ困難な状況にある皆さまの安全と健康をお祈りするとともに、YMCAが取り組む様々な活動にどうかご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

熊本地震緊急支援募金

熊本YMCAでは、この度の地震を受け、全国のYMCAと力を合わせながら避難所の運営、心のケアなどの緊急支援活動を行っています。一日も早い安全の確保と復旧のために、皆様の尊いご支援とご協力をお願い申し上げます。

募金期間 6月30日(木)まで

皆様の募金は、以下の活動に用います。

- 被災コミュニティの緊急支援
 - 避難所支援
 - 地域住民の生活支援
- 被災者の復興支援—熊本YMCAの活動を通して持続的な市民の復興を支援
 - 市民の心身の健康を支える活動
 - 被災者の心のケア活動
 - 復興を担うリーダーシップの育成

募金方法

お近くのYMCAに直接お持ちいただくか、振込の場合はwebサイトをご覧ください。



お問合せ先

熊本YMCA本部事務局(緊急災害対策本部) TEL:096-353-6397

お知らせ

熊本地震発生に伴い、5月27日(金)、28日(土)、29日(日)に予定をしておりました熊本YMCA大会(定期総会含む)は延期といたします。

熊本地震の影響により、YMCA NEWSの発行が遅れましたことをお詫び申し上げます。今号は5月・6月の合併号とし、次号は7月に発行いたします。

また、この5・6月号の内容は工程上、5月10日以前に制作したものです。ご了承ください。

わたしと聖句



日本福音ルーテル大江・宇土教会 立野 泰博

ローマの信徒への手紙 16章2節

あなたがたの助けを必要とするなら、どんなことでも助けてあげてください。

必ず助け手はくる

熊本地震支援活動はいまも続けられ、熊本YMCAも行っています。

被災後すぐに、笑顔と茶封筒に力をいただきました。4月17日のことでした。ライフラインはなく、益城、阿蘇の被害状況が知らされ、これからどうするかと悩んでいました。赤ちゃんを抱えた親子がもう3日も海苔しか食べてないと教会に來られました。

そんな時、すぐに電話で必要なものを聞き届けてくださったのは、鹿児島伊集院バプテスト教会でした。その日に届けられた離乳食を手にした親子の涙は忘れられません。赤ちゃん救援

物資を山ほど積んだ牧師先生ご夫妻の笑顔に、どれだけ神様からの力と助けをいただいたでしょうか。

次に信仰の友が夜中に駆けつけてくれました。鹿児島から車を走らせて、来る途中の全自動販売機でペットボトルの水を買い、救援物資と共に届けてくれました。鹿児島から一般道で、しかも水を買って、何という暖かい思いやり。彼は帰りに茶封筒をくれました。「妻のへそくりをみつめました。先生の活動に自由に使ってください」。彼の奥さんは2年前に召天されました。この優しさと思いやりにどれだけ支えられたことか。緊急必要物資をすぐ発注し使わせていただきました。ガソリン代や活動費にも使用。この資金があるから目の前におられる人々にすぐに仕えることができました。

神様は必ず助け手を用意してください。神様が共におられる支援活動をしています。安心して続けましょう。

発行所 / (公財) 熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)

発行人 / 岡 成也 編集人 / 富森 靖博
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2016年度基本聖句

コリントの信徒への手紙Ⅱ 13章11節
思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいてくださいます。